

黒川能の里王祇会館 - 紹介動画(2.黒川能の1年)

黒川能は、約550年にわたって黒川の地で代々受け継がれてきた、能(日本の古典舞踊劇)です。1976年に日本政府から重要無形文化財に指定されました。

黒川能は、春日神社で行われる霊祭の一部です。他にも2種類の能が黒川能に組み込まれています。この水焰の能、蠟燭能は鶴岡市が主催し、黒川の人々によって年間を通じて各地で数多く演じられています。

【暗転】

黒川は冬、まだ夜は明けていません。地元の人々は、春日大社で一年で最大かつ最も重要な祭りである王祇祭の準備をしています。参拝の対象である王祇様は、神社から住人の家まで運ばれます。

王祇祭は毎年2月1日と2日に行われます。人々は豊作を祈願し、平和な一年を迎えます。

黒川能のパフォーマンスは、夜遅くまで続きます。少年の演説と踊りから始まり、神話や喜劇とが続きます。

【パフォーマンス】

キャンドルライトが灯る独特の雰囲気の中で、全国から能のファンが集まり、黒川能のパフォーマンスを見ることができます。

翌日、春日大社の小さな窓から王祇様を届けるために、地元のお祭りの参加者が競い合います。活気あふれる挑戦の後には能楽が続きます。能楽では、その落ち着いた雰囲気が次第にエネルギーに溢れたものになっていきます。

{暗転}

10月中旬には、若い演者や奏者が蠟燭の明かりを使った「蠟燭能」を披露します。黒川はスローガン「黒川能を黒川で」と共に1994年から観光客を惹きつけ始めました。

[会話]

地元の鶴岡で採れた山菜や海の幸を使った、しみ豆腐という郷土料理。能楽師と地元の人々が一緒に昼食を楽しんでいます。

夕方には抽選会が行われます。賞品は、その日の能楽で使われたろうそくのひとつです。受賞者は、興奮の叫びと歓声をあげ喜びを露にします。

【暗転】

3月23日、春日大社で豊作を祈願する祈念祭が開催されます。それからしばらくすると春が訪れ、丘や野原に桜が咲き乱れます。

黒川の地には農業を生業とする人々が多く住んでいるため、田んぼは田植えの人でにぎわいます。黒川能の演者でさえ、普段は農業を実践している人もいます。春日大社は5月3日に別の祭りを開催し、来年の豊作を祈願します。

【パフォーマンス】

最初の神道の儀式の後、能の舞台でいくつかの演目が行われます。

[ブラックアウト]

出羽三山神社は、神道と仏教の概念を取り入れた修験道を中心とした山岳信仰の場として古くから訪れられてきました。

羽黒山花まつりは、羽黒山の仏教を祀るお祭りです。羽黒山花まつりは出羽三山神社で毎年開催されるお祭りのひとつです。それは、悪を追い払うために神々の前に花を置く96日間の期間の終わりを示します。稲が開花し始める7月15日に開催され、豊作を祈願します。

神社では若い信者が、花の神様の霊を宿した山車を描いています。フロートに飾られた造花を取り除くことができれば、豊作や家族の安全などの願いが叶うと信じられています。

【パフォーマンス】

このお祭りでは、黒川能の伝統を守るための地元の人々の献身が見てとれます。

[ブラックアウト]

8月の第一土曜日、櫛引の公園にある野外ステージで水焰の能が上演されます。その伝統は、町の設立30周年を記念して1984年に始まりました。能の神座（上座）と下座（下座）は交互に演奏します。舞台を包み込む息苦しいような夏の暑さの中、パフォーマンスが行われます。パフォーマンスにおける水と炎のユニークな組み合わせは、毎年多くの参加者を魅了しています。

[暗転]

7月末に梅雨が明けると、能楽に使われる衣装やマスクは、カビや虫害を防ぐために吊るして乾かします。この実践は、黒川の伝統芸能の形を守るためにたゆまぬ努力をしている地元住民によって行われています。

黒川能の衣装の中には、都や国の有形文化財に指定されているものもあり、とても価値があります。歴史的な衣装や仮面は、能や狂言の舞台芸術とともにこうして代々受け継がれてきたのです。

[暗転]

実り多い秋の季節のため、農民たちは忙しいのです。

米、柿、大豆など、一年を通して丁寧に栽培されてきた農産物を収穫しています。地元の人々は、豊富な農産物を提供してくれた神々に感謝します。

11月23日、春日大社で新嘗祭が行われ、豊作を祝うお祭りが行われます。

【パフォーマンス】

黒川能は、豊作を祝い、神々に感謝を表すために行われます。

[フェードアウト]

厳しい冬がやってきました。黒川はまた1年の幕開けとなる王祇祭の季節を迎えます。

[暗転]